

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202857		
法人名	有限会社 のどか		
事業所名	グループホーム のどか		
所在地	札幌市北区5条3丁目10-26		
自己評価作成日	平成30年10月4日	評価結果市町村受理日	平成30年11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170202857-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170202857-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> <li>地域密着型サービスとして、地域の関わりを重視して活動している。</li> <li>利用者の能力に合わせて、役割を持っていただき、必ず感謝の意を伝える。</li> <li>個々の生活を大切にし、笑顔で過ごせる様支援している。</li> </ol>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>札幌市郊外のJR拓北駅から徒歩5分程の閑静な住宅地にある1ユニットのグループホームである。近くに公園やコンビニエンスストアがあり、利便性に優れている。建物は清潔で、食堂とリビングが一体的で明るく、リビング脇にも休憩できるソファのスペースを作っている。壁に利用者の作品や行事での写真を飾り、浴室やトイレ、洗面所なども使いやすく造られている。地域交流の面では、拓北地区および、移転前に属していたあいの里地区の両方の夏祭りに利用者と一緒に参加したり、事業所の行事の際は地域にチラシを配って住民の参加を得ている。また、小学生や歌のボランティアとの交流もある。市との関係では、統括部長が認知症介護指導者として市に協力したり、市の斡旋による実習生を毎年受け入れている。職員は利用者によく優しく接し、利用者が笑顔で穏やかに過ごしている。管理者、統括部長を中心に、職員の働きやすい職場づくりを心がけ、長く勤める職員が多いのも特長である。医療支援の面では、職員に看護師を配置することにより受診時の適切な情報交換ができており、看取りの面でも利用者や家族の希望に沿ってできる範囲での対応を行っている。排泄の面でも布パンツの使用を促したり、入浴時は全員が湯船に入れるようにするなど、自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“地域密着”、ということを常に念頭におき、活動している	事業所理念とケア理念があり、どちらにも地域との関わりをあげている。両理念をパンフレットや玄関に掲げ、共有している。職員は個々に理念を携帯するなどして理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに、積極的に参加したり、施設の行事(のどか祭り・クリスマス会)で交流している	拓北地区やあいの里地区の町内会のお祭りに利用者と共に参加している。事業所のお祭りやクリスマス会では地域にチラシを配り、住民が多数参加している。小学生が毎年20名程度、事業所を見学に来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケア施設町内会に参加したり、認知症の相談をうけたりしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2月に一度)に会議を開催し、地域の方の意見をきき、サービスに生かしている	会議を2か月毎に開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族などが参加している。防災や行事などをテーマとしているが、サービス評価は取り上げていない。テーマは地域包括支援センター提供の情報が中心である。	外部評価の結果や評価への取り組み状況も会議で取り上げることを期待したい。また、事業所でも計画的にテーマや資料を用意し、話し合いを行うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の担当者と認知症の情報を交換して、顔が見える関係を築いてる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得るほか、市や区の管理者会議でも担当者と情報交換している。統括部長が認知症介護指導者として市に協力している。また、市の斡旋による実習生を毎年受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束撲滅委員会を設置し、“拘束しない、ケアに取り組んでる	身体拘束に関する委員会を定期的開催し、具体的な禁止行為の有無について確認している。また、禁止行為の11項目を事務室に掲示している。玄関は日中は施錠せず、利用者の外出があればセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、社内、外部研修に参加し、不適切なケア防止に努めている		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を、持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約を、交わすときに、説明している質問には詳しく答えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所、電話の際、意見要望を聞き、ミーティングの場で職員に伝えてある	運営推進会議に家族が交替で参加し、意見をj得ている。家族が来訪した際のやり取りを主に連絡帳に記録し共有しているが、今後は利用者ごとの記録用紙に記録する意向である。毎月「のどか通信」に写真を添えて家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見を聞き、運営に生かしている	毎月のミーティングで職員が活発に意見交換している。職員は代表者と年1回の面談を行っている。運営に関する細かな役割分担表を作り、職員が業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等で、個々の意見を聞き、勤務体制を決定している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの意向見極め、外部研修に参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れ 外部研修参加で、情報交換を行っている		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人だけではなく、家族にも聞き取り、又、生活状況を見守りケアを通じ、関係作りをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に情報収集し、不安な点について、お答えして、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が一番必要としていることを、優先して支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることをしていただき、“できないこと、は支援してともに暮らす者同志の関係を、築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が、いつでも会いに来ていただける環境を、整えてともに本人を支えていく関係をきづいている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が、いつでも来ていただける様、支援に努めている	友人や知人が来訪する利用者は減ってきている。1名の方は馴染みの美容室に通っており、近くのコンビニエンスストアに買い物に行く方もいる。出身地に新しくできた道の駅に利用者と一緒に出かけたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を、配慮しながら、支え合えるような支援に努めている		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談を受けたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を、職員が推測して支援している	3分の1程の利用者が意向を表出でき、難しい方の場合は経験や表情などから把握している。センター方式のD1、D2シートを定期更新しているが、生活歴や趣味・嗜好の情報は少ない。	センター方式のD2シートの「その他」欄を活用して趣味・嗜好の情報を記載することを期待したい。生活歴情報についても既存のシートを利用し、整備することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族から聞き取り、馴染みの暮らしが続けるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態を把握し、利用者様本位の自立支援を行っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ケアマネ 担当者等を中心にミーティングで話し合い作成している	介護計画を3か月ごとに更新している。モニタリングシートを作成し、カンファレンスで意見交換して次の計画を立てている。日々の記録は介護計画を意識した記録の作成を進めている。	モニタリングシートに目標の具体的内容についても掲載し、各内容についてどの程度「達成できた」「できなかった」などが分かるようにシートを作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入することで、職員間で情報共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に合ったニーズに合わせて対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握し、(お祭り等)楽しみごとに行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受けており、体調管理をしている	協力医療機関による月2回の往診があり、全員が受診している。その他の通院は家族対応としているが、必要に応じて事業所で支援している。職員に看護師を配置し、往診時に付き添っている。	

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回勤務している看護師に、相談対応について情報をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ご本人が安心出来るよう、職員が見舞いに行っている。早期退院出来る様、情報提供をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時、入所の際、意向を確認している。ご家族には前もって相談している	利用開始時に「利用者が重度化した場合の対応指針」を説明し、書類を取り交わしている。過去に3名の看取りを経験しており、看取りに関する家族との話し合いも記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員で話し合い、マニュアルを作成している。初期対応の訓練を定期的に行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っているが、避難後についてはまだ不備がある	年2回の昼夜を想定し消防の協力を得て避難訓練を実施し、職員の救急救命訓練も行っている。一方、最近では訓練時の地域住民の参加は得られていない。災害時に必要な備蓄品を用意している。	避難訓練に地域の方の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、プライバシーに配慮した対応をしている	職員は、実践者研修で認知症に対する対応や言葉遣いを学んでいる。新人職員には、普段のケアの中で適切な対応や言葉かけを指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様、支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせた支援をしている 起床・食事		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来る様、洋服を選んでいただくことをしている		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けを一緒に行っている	利用者が調理をする機会を設けて一緒に肉じゃがを作ったり、おやつに白玉団子やいも餅をすることもある。土用の丑の日にウナギを食べて季節感を感じたり、外出行事に合わせて外食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は、日誌に記入して管理している。食事の量も形状も個々に合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は個々のパターンで、トイレ誘導を行っている	利用者の状況に応じて排泄記録を付けて声かけや誘導を行っている。夜間のみおむつを使用する方もいるが、日中は全員が布パンツとパッドなどを使用してトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を、促している 一人ひとりの予防を看護師と対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が、入浴日を決めている 本人が嫌だという時は日にちを変更している	午前中を中心に、同性介助を基本に週2回以上の入浴を支援している。二人介助が必要な方もいるが、会話をしたり歌をうたいながら全員が湯船に入ってゆっくり入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や、体調をみながら日中も休んでいた		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、個々にあった方法でしていただいている。 薬が変更になったときは、連絡帳で職員に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆でレクをしたり、個人の楽しみごとをしていただいている		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事など全員で、外出することはあるが、本人の希望での外出はなかなかできていない	身体状況の重度化に伴い外出の頻度は少なくなっているが、玄関先で外気浴をしたり近隣の住宅地や公園を散歩している。花見でモエレ沼に出かけたり、よさこい見学や北大のイチョウ並木の紅葉見学に全員で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持している方は、1名で以前は買い物が出来たが支援が必要となってきている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙の取次等の支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは、利用者様がわかりやすい様表示している。季節がわかる様な飾りつけをしている	台所を中心にした回廊式の造りで、食堂とリビングは開放感のある大きな窓に面している。壁には季節の装飾や風景写真、利用者の写真などが飾られている。トイレは入り口が居間などから見えにくい場所に設置し、洗面所の鏡は傾斜をつけて車椅子の方も使いやすいように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が、過ごしやすい様にその人にあったクッションを使用して居る 利用者様はソファ席やテーブル席ですぐしやすいところで過ごしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人の使い慣れたものを、配置して居る	造りつけのクローゼットがある居室に、好みのベッドや使い慣れたタンス、椅子などを持ち込んで過ごしやすいように配置している。家族の写真や職員からの誕生日カードなどが飾られており、温もりのあるその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の案内表示は、利用者様目線に合わせている リビングのテーブルの高さも工夫して居る		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム のどか

作成日：平成 30年 11月 2日

市町村受理日：平成 30年 11月 5日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	センター方式のD2シートの「その他」欄を活用して趣味・嗜好の情報を記載することを期待したい。生活歴情報についても既存のシートを利用し、整備することを期待したい。	利用者様の趣味、嗜好を把握することにより、ご本人・ご家族の希望や意向に沿った生活が出来る様支援する。	担当職員が中心となり、全員でD2シートの「その他」の欄を活用して本人の現状や希望を記載する。ご本人に確認できない場合は、ご家族に確認する。	6か月
2	26	モニタリングシートに目標の具体的内容についても掲載し、各内容についてどの程度「達成できた」「できなかった」などが分かるようにシートを作成することを期待したい。	モニタリングシートに目標の具体的内容も掲載し、達成度をわかる様にする。	目標の各内容ごとに、達成度を記入し達成度合いにより目標設定の見直しをする。	次年度
3	35	避難訓練に地域の方の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。	外部評価の結果や取り組みを、報告することで、より地域の方に事業内容を理解していただく。	運営推進委員会で報告する。また参加出来なかった方には議事録を送付する。	6か月
4	4	外部評価の結果や評価への取り組み状況も会議で取り上げることを期待したい。また、事業所でも計画的にテーマや資料を用意し、話し合いを行なうことを期待したい。	避難訓練に地域住民へ参加の声かけをする。参加時の役割等を決めて行なう。	運営推進委員会で、議題として話し合いできればご家族にも参加をお願いする。	3か月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。